

学 校 評 価 に 関 す る 参 考 資 料

- 学校評価システムの確立に向けて -

【 県 立 学 校 】

栃木県総合教育センター
平 成 1 6 年 1 1 月

1 はじめに	1
2 学校評価システムの確立に向けたポイント	
○ ポイント（１）学校評価委員会の設置	3
○ ポイント（２）学校経営のビジョンと学校評価の関係	6
○ ポイント（３）評価項目の設定	9
○ ポイント（４）生徒による学校評価	13
○ ポイント（５）保護者による学校評価	20
○ ポイント（６）学校評議員の学校評価への関わり	24
3 学校評価システムの全体像と実践の流れ	25
4 おわりに	33

1 はじめに

本県においては、「県立学校における指導の指針」に基づき、各学校は家庭や地域の人々と連携を深め、家庭や地域とともに生徒を育てていくという視点に立ち、開かれた学校づくりを推進してきました。

さらに、平成14年3月に「小学校設置基準」および「中学校設置基準」の制定、「高等学校設置基準の一部改正」などが行われ、これまで以上に、学校は教育活動や学校運営の改善につながるような自己評価のシステムを確立するとともに、取組の過程や成果を、保護者や地域の人々に対してわかりやすく説明することが必要となっています。

現在、多くの学校では、生徒や保護者、学校評議員などとの関わりを重視して、学校評価の改善に積極的に取り組んでおり、その成果が少しずつ手応えとして感じられるようになってきています。

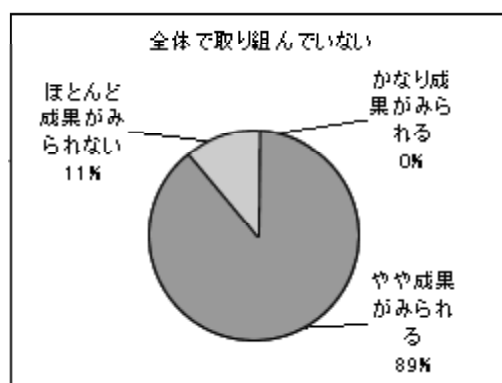
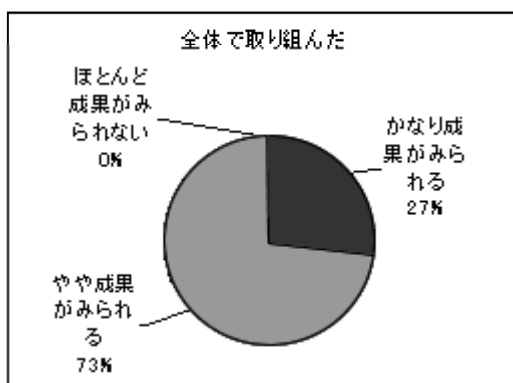
栃木県総合教育センターが行った「学校評価に関する調査（平成16年5月）」の結果、次のようなことがわかりました。

★ ここに注目！

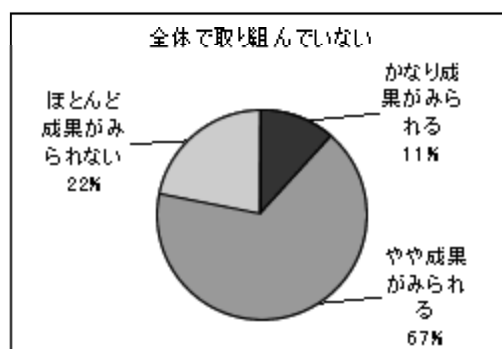
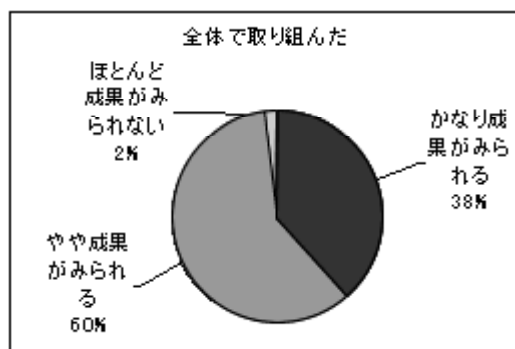
学校全体で取り組んだ学校では、教職員の意欲が喚起されたり、共通理解が推進されたりしているという回答が多い。

〔質問1〕 学校評価によってどのような成果がみられましたか。

①教職員の意欲の喚起



②全職員の共通理解の推進



このような調査の結果は、これからの学校評価の考え方や特徴をよく表しているものと考えられます。一人一人の教職員は、生徒や保護者のニーズを把握する重要な役割を果たします。また、評価結果に基づく改善を具体的に実行するのも、授業や校務分掌を担当する一人一人の教職員です。「学校評価は管理職や学校評価委員会が取り組むもの」というとらえ方を変えていくことが、学校評価を教育活動や学校運営の改善に生かすために必要です。

本資料では、学校全体で評価に取り組んで、学校の活性化や改善につなげるためのポイントとして以下の６点に着目し、事例を紹介しながら解説します。

- (１) 学校評価委員会の設置
- (２) 学校経営のビジョンと学校評価の関係
- (３) 評価項目の設定
- (４) 生徒による学校評価
- (５) 保護者による学校評価
- (６) 学校評議員の学校評価への関わり

紹介した事例には、学校の活性化や改善につなげるための各学校の視点やアイデアを示しました。また、各学校が取り組むべき課題ととらえていることや、取り組みやすいと考えていることから始められるように、それぞれのポイントごとに内容をまとめました。

本資料が、各学校が学校評価システムを確立するための参考資料として、あるいは、これまでの学校評価を新しい視点から見直すための参考資料として活用され、教職員の共通理解や、教育活動の充実などの具体的な成果につながることを期待します。

■ 聴き取り調査校

本資料の作成にあたり、以下の８校から学校評価の実践に関する聴き取りを行いました。

- 栃木県立鹿沼東高等学校
- 栃木県立小山西高等学校
- 栃木県立栃木南高等学校
- 栃木県立壬生高等学校
- 栃木県立佐野松陽高等学校
- 栃木県立真岡工業高等学校
- 栃木県立那須清峰高等学校
- 栃木県立国分寺養護学校

2 学校評価システムの確立に向けたポイント

ポイント（１）学校評価委員会の設置

学校評価の推進や改善のために、学校評価委員会の果たす役割を明らかにする。

学校全体で評価に取り組むためには、企画、調整、実施の役割を担う中心的な組織が必要になります。本県でも、このような役割を担う組織として、学校評価委員会を設置する学校が増えています。ただし、新たな組織を設置しないで、既存の学校運営委員会や教務部などが担当している例もあります。いずれの場合でも、一人一人の教職員が担当する教科や校務分掌などと、学校評価を担当する組織との関連を明らかにすることが大切です。

組織の在り方は各学校によって異なりますが、学校評価委員会が担う主な役割は、次の三つの段階にまとめることができると考えられます。

Step1 評価の計画

- ・ 先行事例や資料を提供して、教職員の共通理解を促す。
- ・ 管理職や学校運営委員会（企画委員会）などの組織と連携しながら、学校経営のビジョンや重点目標に対応する評価項目を設定する。
- ・ 評価結果を予想し、評価の判断基準を明らかにする。
- ・ 教職員、生徒、保護者などによる評価を適切な時期に設定した年間計画を立案する。

Step2 評価のスケジュール管理・結果の集計

- ・ 年間計画に基づいて、学校評価を円滑に実施する。
- ・ 評価結果の集計をすみやかに行う。

Step3 評価結果の考察及び改善策のまとめ・公表

- ・ 各校務分掌が行った考察や改善策をまとめる。
- ・ 公表の時期・方法を検討して、重点目標の達成度を明らかにする。

➡ 【 ポイント(1)の事例 】

ポイント(1)で示した役割のすべてを学校評価委員会が担うわけではありません。学校経営のビジョンの具体化や評価項目の設定については、管理職や学校運営委員会との調整が、また、評価の実施や評価結果に基づく改善策の作成などについては、各校務分掌、学科、学年、教科などとの調整が重要になります。このようなことから、学校評価委員会には、機動的かつ柔軟で、調整力に富んだ組織運営が求められます。

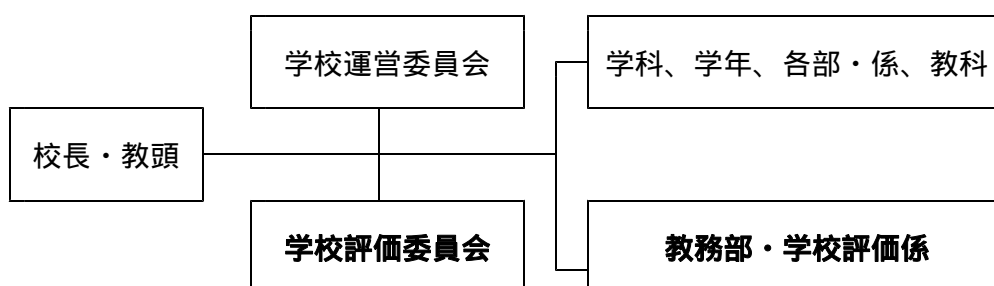
次の二つの学校の事例では、学校評価の役割を明確にして、学校評価委員会本体とは別の少人数の担当者からなる組織を生かそうとしています。大きな学校評価委員会の組織ですべての事項を担当するよりも、効率的な運営ができると考えられます。

〔事例(1) - 1〕 学校評価の推進・運営の役割を委員会と部・係で分担している。

- 初年度は、年度途中に学校評価の準備・検討を行う委員会を設置して、試行的に実施するための評価票の原案を作成した。
- 二年目から学校評価委員会を設置して本格的に取り組んでいる。
- 評価結果の集計・まとめを行う学校評価係を教務部に設置し、すみやかに評価結果を資料として示すことができるようにしている。

■ 現在の組織図

- ・ Step1 (評価の計画) の機能は、「学校評価委員会」が担う。
- ・ Step2 (評価のスケジュール管理・結果の集計) の機能は、「学校評価係」が担う。
- ・ Step3 (評価結果の考察及び改善策のまとめ・公表) の機能は、「学校評価委員会」が担う。



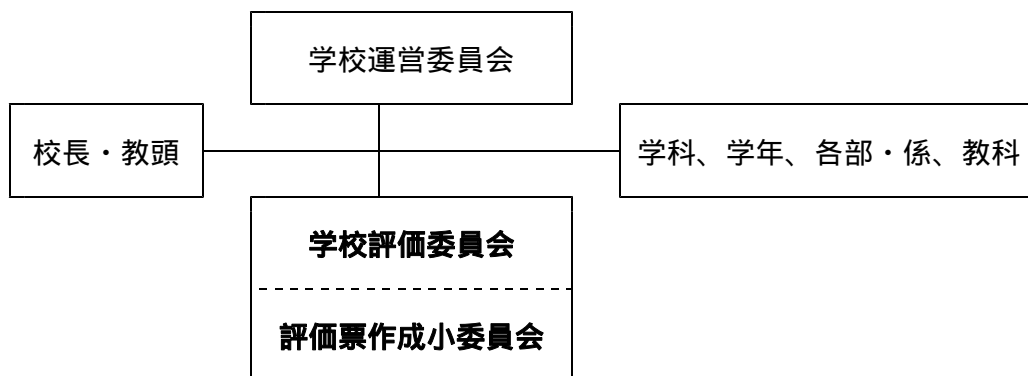
集計処理にはカードリーダーを利用して省力化を図っている。

〔事例(1) - 2〕学校評価の推進・運営の役割を委員会の中で分担している。

- 初年度は、教頭を中心に教職員による自己評価票の原案作成に取り組んだ。
- 二年目からは学校評価委員会を設置した。
- 学校評価委員会が評価結果の公表や改善の方策まで検討する機能を持つ大きな組織であるため、内部に評価票の原案を検討する小委員会を設置して、評価票の改善に取り組んでいる。
- 学校評価委員会や小委員会の担当には、中堅や若手の教員からも選び、創意工夫が生かせるような組織になるよう配慮している。

■ 現在の組織図

- ・ Step1 (評価の計画) \ Step2 (評価のスケジュール管理・結果の集計) \ Step3 (評価結果の考察及び改善策のまとめ・公表) の全体を「学校評価委員会」が担っている。
- ・ 学校評価委員会の内部に評価票作成のための小委員会を設置している。



ポイント（２）学校経営のビジョンと学校評価の関係

学校経営のビジョンを明確にして、焦点をしばって評価に取り組む。

○ 学校評価における目標のとらえ方

学校にはさまざまなレベルの目標が存在し、これらは、学校教育目標などの上位目標から、下位目標へと次第に具体化していくしくみになっています。これまでは、学校の経営目標や重点目標を意識して、教育活動や学校運営にあたるという考え方が欠けがちでした。これからは、校訓や教育目標を踏まえ、育てたい生徒像や学校の将来像を明らかにした「ビジョン」が必要です。この「ビジョン」を達成するために、学校がいま最優先で取り組むべき具体的な課題や目指すべき状態を年度の重点目標に設定します。そして重点目標の達成に向け、各校務分掌ごとに努力目標や具体策を検討し、その達成に向けた年間計画を計画し、実施し、評価するということになります。

学校教育目標

自校の存在理由や意義、使命を表すもの（ミッション）

学校の経営目標

学校の将来像や理想像を明らかにするもの（ビジョン）

重点目標

年度ごとに学校全体で取り組むべき課題や目指す状態

校務分掌ごとの努力目標及び具体策

学科、学年、各部・係、教科が本年度に取り組む内容や達成度を表すもの

○ 重点目標、各校務分掌などの努力目標及び具体策と評価項目の関連

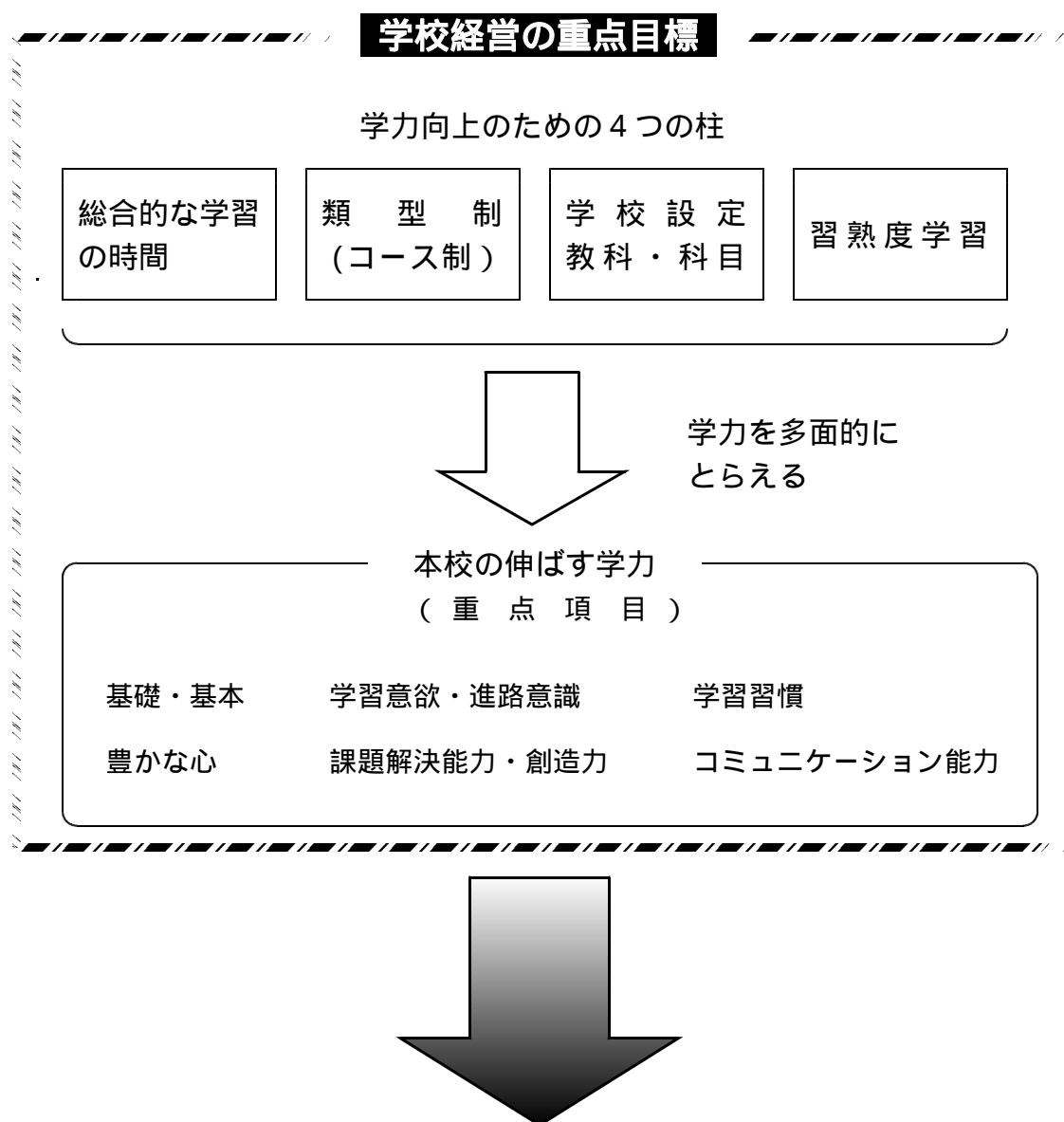
学校評価の対象となる教育活動や学校運営の内容は多岐にわたります。そのため、より具体的で評価しやすい項目を設定しようとして、校務分掌ごとに検討した案を集めると、膨大な項目数になってしまいます。そこで、具体的な目標や方策の中から、複数の部・係が連携して行う必要のある重要度の高いものを選び出し、学校全体で行う評価項目として設定するようにします。

一方、日々の授業や各校務分掌の運営を円滑に進めるためには、学校全体で行う評価以外にも多くの自己点検項目が想定されます。これらについては、自己点検の判断基準を明確にしておいて、担当レベルですみやかに改善できるようにすることが大切です。

➡【ポイント(2)の事例】

次の事例は、学校経営の重点目標に基づき、学校評価システムを運用しているものです。数年間にわたって取り組む重点目標を決めて、その評価を行いながら改善を進めようとするものですから、評価項目もしぼられるため、改善策を設定しやすく改善の手応えが実感できる進め方であると考えられます。

〔事例(2)〕学力向上を学校経営の柱に据えて取り組んでいる。学力をとらえる観点を複数設定し、全教科及び部・係が取り組めるようにしている。



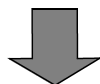
PDCAサイクル

計画(Plan)

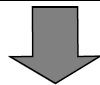
具体的な取組

(例)「学習意欲・進路意識」と「課題解決能力・創造力」の育成をめざして、3年間の「総合的な学習の時間」の体系化を図る。

1年「職業理解・自己理解」 2年「進路研究」 3年「課題研究」



実施(Do)

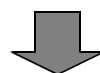


評価(Check)

教職員の自己評価 生徒の評価

評価による実態把握

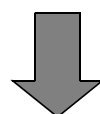
- 教職員の自己評価によって「改善が必要」と判断された項目
 - ・進路指導に関する相談やガイダンスは充実しているか。
 - ・保護者に対して「総合的な学習の時間」のねらいを伝えているか。
 - ・総合的な学習の時間の趣旨を生徒に理解させたり、主体的な取組を促したりしているか。
- 生徒アンケートによって課題が明らかになった項目
 - ・あなたは途中で類型(コース)を変更したいと思いましたか。
 - ・あなたにとって類型(コース)別の授業はどうでしたか。



改善(Action)

評価結果に基づく改善策

- 3年間の「総合的な学習の時間」のシラバスを作成する。
- 体験的な活動を新たに取り入れる。
- 類型(コース)選択のためのガイダンスの充実(外部講師を依頼)。



次年度の計画へ

ポイント（３）評価項目の設定

評価の判断基準や改善に取り組む手順を明確にして、改善策を導くための評価項目を設定する。

評価項目には、学校が当該年度に力を入れて取り組もうとする重点目標に関わるようなものから、ふだんの教育活動や学校運営の質を維持するための点検の意味をもつものまで、レベルの異なるものが混在しています。これらの結果を同じように検討し対応したのでは、改善できることをそのまま放置したり、問題が深刻化する事態につながったりして、学校への信頼を低下させることになってしまいます。そうならないようにするには、評価項目の設定について検討する段階から、評価の判断基準や対応の手順を明らかにすることが大切です。また、教育活動や学校運営の計画、実施、総括の各段階で評価項目を意識して取り組むことが大切です。

さらに、同じ評価項目であっても、常に一定水準の達成度をめざす場合のほか、年度や学期ごとに異なる達成目標を設定することがあります。たとえば、初年度は60%、二年目は70%の満足度を達成目標として設定するなどの方法によって、徐々に改善やレベルアップを図ることができます。

なお、評価結果を改善に生かそうとしても、改善策がすぐには見つからなかったり、改善に着手することができなかったりすることがあります。このような場合には、改善策をいつまでに検討し提示するのか、いつまでに着手するのかといったスケジュールを明らかにすることが評価結果を生かすポイントと考えられます。

評価項目の設定及び運用の留意点

〔 Planの段階 〕

- 教育活動や学校運営の計画と関連付けて、その年度や学期の評価項目及び適切な達成目標を設定する。
- 評価項目の対象や担当の関連を明確にする。

〔 Doの段階 〕

- あらかじめ設定した達成目標のような評価の判断基準や、対応の手順を意識しながら教育活動や学校運営を実施する。
- すみやかに対応できる項目や対応すべき項目を見逃さない。

〔 Check・Action の段階 〕

- 評価結果をもとに改善に着手する時期や手順をあらかじめ示す。
- 公表した期限内に具体的な改善策を提示したり取組を進めたりする。

➡ 【ポイント(3)の事例】

以下の事例は、評価項目を設定する際には、できるだけ数値化したり、段階化したりするようにして、評価結果の全体像を把握できるように工夫している例です。さらに、記述式を組み合わせる具体的な意見や改善策を探るようにしています。

記述式の評価票は従来から行っているスタイルですが、記述する際の観点を明確にすることで、具体的な取組につながるアイディアや意見が得られます。

〔事例(3) - 1〕回答を数値化、段階化して、改善のポイントを明らかにしている。

- 平成14、15年度の二か年にわたって同時期に教職員による学校評価を実施した。(表1) これらについて前年度との比較検討を行って、学校として改善に取り組むべき課題を探ることができた。具体的には、「学習時間0(ゼロ)撲滅運動」を改善の柱として取組を進めている。なお、生徒の学習アンケートは5月と2月の年2回実施した。
- 平成16年度は、学校として改善に取り組むべき課題について、評価票(アンケート)の項目を工夫した。(表2) 指導内容や指導方法について、重要度の認識と実践のずれがあることがわかり、学習指導と評価の改善のポイントを明らかにすることができた。

表1 教職員による評価の結果(一部)

数値は%

項 目	実践している	重要と考える
1 さまざまな学習支援の手だて (補習、単元のまとめプリント、週末課題)	53.2	21.3
2 教科書の重要語句の理解・定着	44.7	34.0
3 わかりやすい授業	59.6	63.8
4 学年ごとの目指す資質・能力 (1:基礎基本の徹底 2:発展 3:総合力)	36.2	48.9
5 放課後などの個別指導	44.7	36.2
6 予習・復習のチェック	27.7	46.8
7 日常的な事象を題材とした活動をとおして発見する学習	29.8	40.4
8 授業技術・学力の水準維持 (声の大きさ、板書の工夫、宿題の与え方)	68.1	53.2
9 意欲を持たせるための目標の設定	27.7	53.2
10 生徒をほめる	46.8	57.4
11 基礎を繰り返し学習させることによる定着・応用力の育成	21.3	53.2
12 問題集や学習プリントの利用	57.4	31.9
13 問題演習	57.4	36.2

(考察・改善の方向性)

- ・ **斜体** の数値の項目は、指導のねらいや効果を明確にする必要がある。
- ・ **太字** の数値の項目は、指導方法や評価方法を工夫する必要がある。

表2 指導内容や指導方法について（A～Dの4段階評価）

数値は%

生徒が確かな学力を身に付けるために熱心に指導しているか。				
A	30.4	B	54.3	C 15.2 D 0
生徒の理解度に合わせて、教科指導の工夫を行っているか。				
A	17.8	B	66.7	C 15.6 D 0
適切な授業の進度をとっているか。				
A	13.0	B	71.7	C 15.2 D 0

（考察・改善の方向性）

- ・シラバスなどを用いて単元の指導の到達目標を明示する。
- ・全員に同じ課題を与え提出を求めることが公平かつ効果的な指導とはいえない。
- ・ある程度継続して指導を行い、提出させた課題を利用することで、各生徒の学習の達成状況を把握する必要がある。

〔事例(3) - 2〕改善につながるような具体的な記述を求める評価項目を設定している。

今後、「開かれた学校づくり」と教職員の資質向上による「よりよい教育の実践」のめに行うこととして、次のようなことが考えられます。これらを実施するにはどうしたらよいか、意見を記入してください。

(1) シラバスの研究と作成を行う。

（具体的な意見）

- ・推進のプロジェクトをつくる。
- ・各教科の年間指導計画を見直す必要がある。
- ・現在より詳細なものが必要である。
- ・生徒の成績や授業の記録をもとに、生徒に合ったシラバスを検討する。
- ・夏季休業中に年間指導計画の見直しを行う。

(2) 授業の公開を行い、授業の研究に努める。

（具体的な意見）

- ・常に授業をオープンにする。
- ・学習部が中心で、「授業公開週間」などを設定して計画的に行う。
- ・よい取組を紹介する。
- ・同一学年、同一教科内でまず実践する。
- ・他教科の実践を参考にする機会として有意義である。
- ・出張や教科外の活動をスリム化しないといけない。
- ・誰を対象に行うか検討は必要である。

(3) 学校課題解決のための校内研究を積極的に行う。

（具体的な意見）

- ・小さな単位でミーティングを工夫する。
- ・少人数で自主的に研究する。
- ・学校外の人材を講師に招いて実施する。

〔事例(3) - 3〕本年度の重点目標をもとに、教師が取り組む方策や評価方法、評価の判断基準などを明確にしている。

1 本年度の重点目標

- 学力の伸長
 - (1)学習習慣の確立 (2)わかる授業の展開 (3)学習意欲の高揚
- 生徒指導の充実
 - (1)基本的生活習慣の確立 (2)交通安全意識の高揚
 - (3)明るくいきいきとした学校づくり

2 本年度の重点目標に対する自己評価

- 具体策・方策：欠席・遅刻をなくす
- 具体的な評価方法：出席率・遅刻率に評価の判断基準を設定し、到達度を評価する。

3 生徒指導部の本年度の努力点

- 規律ある日常生活習慣の養成
 - (1) 規則の遵守、適正な服装、礼儀作法、あいさつ、ことばづかい等の常時指導
欠席、遅刻をなくす。
学習環境を整える。
あいさつの励行。
服装指導の徹底。

4 出席率・遅刻率の評価の判断基準

○ 出席率

A 十分に達成	(99 . 0 % 以上)
B 達成できた	(99 . 0 % 未満 - 98 . 5 % 以上)
C もう少しで達成	(98 . 5 % 未満 - 98 . 0 % 以上)
D 達成できなかった	(98 . 0 % 未満)

○ 遅刻率

A 十分に達成	(2 . 0 % 未満)
B 達成できた	(2 . 0 % 以上 - 3 . 0 % 未満)
C もう少しで達成	(3 . 0 % 以上 - 4 . 0 % 未満)
D 達成できなかった	(4 . 0 % 以上)

○ 指導上の留意点

朝の遅刻指導、生徒への声かけをすることにより、基本的生活習慣の確立をめざす。
--

ポイント（４）生徒による学校評価

生徒による評価の位置付けを明確にして教育活動の改善に生かす。

多くの学校では、生徒が充実した学校生活を送るためのよりどころとして、生徒指標や努力目標などを設定しています。また、近年、作成する学校が増えているシラバスにも、生徒の主体的な学びを促すため、学習の到達目標を明らかにしようとするねらいがあります。これらに示されている学校生活や学習の目標は、生徒のために設定するものですが、評価方法を工夫することによって学校評価に生かすこともできます。

たとえば、学校生活について生徒にアンケートを実施したり、学校生活や学習への取組状況を生徒に自己評価させたりすることで、学習だけでなくさまざまな教育活動に関する生徒の満足度、関心、意欲などを把握することができます。これらは指導する教職員にとって、改善に役立つ貴重な情報となります。

これまでも、学校行事などの特別活動については、アンケートなどを用いて満足度などを把握するための評価を行ってきました。また、学習に関するアンケートなどについても、各学校の生徒の状況に応じて質問項目を工夫して実施してきました。これからの学校評価では、これまで行ってきたアンケートや評価票の項目を、学校経営のビジョンや重点目標と関連付けて見直す視点が大切です。

➡ 【ポイント(4)の事例 その1】学校生活全般についての評価

生徒の学習意欲や進路意識の高揚を図るために、特別活動を含めた教育活動全体に目を向けた学校評価を行うことが大切です。

次に示す〔事例(4) - 1〕では、学校の教育活動に関して、生徒による満足度評価に取り組んでいます。

また、次ページの〔事例(4) - 2〕では、教師側の重点目標に対応させた、生徒の努力目標を示し、その達成状況について、生徒に自己評価をさせています。生徒の自己評価の結果は、教育活動の改善に生かしたり、次年度の目標設定のよりどころにしたりすることができます。

〔事例(4) - 1〕生徒による満足度評価を実施している。

(重点項目・評価項目・評価結果)

重点項目	評価項目・評価結果
授業のわかりやすさ	1 授業はよくわかりますか。 ア よくわかる(4%) イ だいたいわかる(50%) ウ すこしわかる(38%) エ 全くわからない(9%) (エを選んだ理由)
学校生活への関心	2 学校生活で関心が高いものはどれですか。 ア 進路(12%) イ 学業生活(5%) ウ 部活動(11%) エ 生活行動面(3%) オ 友人関係(28%) カ 学校行事(生徒中心の球技大会・学校祭など)(15%) キ 資格試験(25%) ク その他()
学校生活への満足度	3 あなたは学校生活に満足していますか。 ア たいへん満足している(3%) イ だいたい満足している(34%) ウ 普通(42%) エ やや不満である(12%) オ 不満である(9%) (アを選んだ理由) (オを選んだ理由)
今年度の学校行事の検討課題	4 学校行事について(生徒中心の球技大会・学校祭など) ア 増やしたほうがよい(49%) イ このままでよい(44%) ウ 減らしたほうがよい(7%)

〔事例(4) - 2〕教育活動や指導の改善をめざして、学校生活に対する生徒の自己評価を実施している。

- 1 本年度の重点目標（抜粋）
 - 生徒指導の充実
 - (1) 基本的生活習慣の確立
 - (2) 交通安全意識の高揚
 - (3) 明るくいきいきとした学校づくり
 - 健全な心身の育成
 - (1) 個性を尊重し思いやる心の育成
 - (2) 魅力ある部活動の環境づくり
- 2 本年度の生徒の努力目標
 - (1) 皆勤・クラス皆勤賞をみざそう
 - (2) 読書の習慣を身に付けよう
 - (3) 部活動に積極的に取り組もう
- 3 生徒の自己評価項目と評価結果

- ・(1)～(3)の 、 などに、1年間を振り返り答えてください。()回答の割合%
- ・当てはまる数字またはアルファベットを○で囲んでください。
- a そう思う b どちらかといえばそう思う
- c どちらかといえばそう思わない d そう思わない

(1) 出席状況について

本年度は、皆勤、精勤を目指し努力した

a (35.7) b (24.4) c (20.7) d (14.0) 無回答 (5.2)

欠席は、[0日 1～2 3～5 6～9 10～19 20以上]した 無回答

(34.2) (20.2) (19.7) (11.9) (5.2) (3.1) (5.7)

(2) 読書について

朝の読書の時間を大切にし、一生懸命取り組んだ

a (24.9) b (25.9) c (20.2) d (23.8) 無回答 (5.2)

本は、[0冊 1～2 3～5 6～9 10～19 20以上]読んだ 無回答

(17.1) (31.1) (18.7) (8.8) (3.1) (9.8) (11.4)

(3) 部活動について

部活動に一生懸命に頑張った(部活動に加入している生徒についての集計)

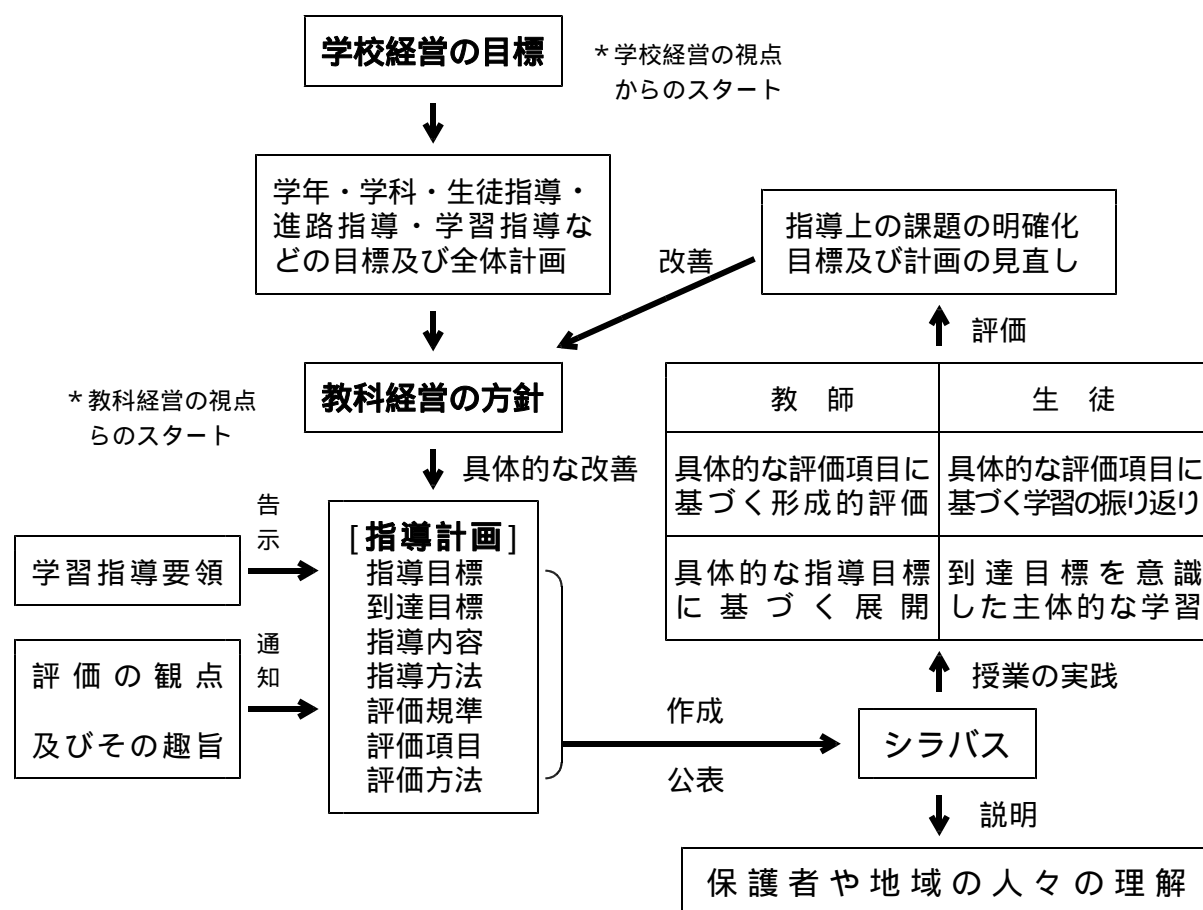
a (70.3) b (27.0) c (2.7) d (0.0)

➡ 【ポイント(4)の事例 その2】 授業に関する評価とシラバスの関連

授業に関する評価項目については、生徒による授業評価と生徒自身が自分の学習を振り返るための評価（生徒の自己評価）を組み合わせた形式が多くとられています。いずれの場合においても、授業の進め方や課題の設定について、シラバスなどを用いて適切にガイダンスを行うことが大切です。

生徒による授業評価を実施する場合、各教師の指導方法に関する個別の評価と、学校として取り組む学習指導の方針に関する評価を分けてとらえることが大切です。

また、生徒の自己評価は、生徒自らが学習の状況を振り返ることで、今後の学習の目標の明確化につながります。生徒自身のための評価という意味合いになりますが、生徒の自己評価の結果が良好であることは、授業や学習指導そのものが効果を発揮していることを表すと考えられます。



シラバスの作成及び活用の全体像

「高等学校におけるシラバス作成のポイント（平成15年11月 栃木県総合教育センター）」より抜粋

〔事例(4) - 3〕シラバスを用いて生徒に自己評価をさせている。

○ 導入の効果について

- ・各教科とも、シラバスの導入によって指導方針が明確になり、わかりやすい丁寧な授業が展開されるようになった。
- ・「家庭学習0(ゼロ)の生徒が多い」という生徒対象のアンケート結果に対して、組織的にアプローチする体制づくりができた。

(教育計画・教員による評価について)

1 学習指導部の目標・努力点

基礎学力の充実

自ら学ぶ態度の育成

2 教員による評価

評 価 項 目
指導(授業・テスト)の内容について、教科内でよく話し合っている。
生徒の成績評価については、担当で必ず話し合っている。
事前に授業準備をして、いつもわかりやすい授業を心がけている。
授業以外に、理解度の低い生徒について面談や個別指導をしている。
生徒にとって魅力ある授業を展開できたか。
年間計画表の学習内容や授業の進度は適切であったか。

A → YES

B → どちらかといえばYES

C → どちらともいえない

D → どちらかといえばNO

E → NO

(シラバスについて)

シラバスに授業の進度、課題やテストの概要、評価のポイントを示して、学習のガイダンスを行う。教職員の評価と、授業評価や生徒自身の自己評価とを関連付けることで、教員はそれらの結果を学習指導の改善の参考にする。

シラバスに記載した事項		授業評価の項目や 生徒の自己評価の項目
(関心・意欲・態度のポイントを示す) ・自分なりのノートを作成するように心がける。 ・仲間と協力して資料を集めたり、意見交換する。 ・学んだことを身近な事象を考えるのに生かそうとする。		あなたは、この科目について意欲的に授業に参加していますか。
(学習についての留意点を示す) ・授業の開始時には、チャイムの鳴る前に着席し、教科書、ノートを準備しておきましょう。		この科目の授業前に教科書・用具を準備して、チャイム着席していますか。
(実験・実習のスケジュールを示す) ・一つのテーマをおよそ3週単位で進めます。		この科目の授業進度(スピード)は適切ですか。
(基本的な学習方法・アドバイスを示す) ・自分に合う勉強方法がわからない人は先生に相談してほしい。	関連する 評価項目	この科目の先生は、生徒の質問に適切に対応してくれますか。
(学習の到達目標を示す) ・次の四つの英語によるコミュニケーション活動に取り組みます。 英語を聞いて要点をとらえる。 英語を読んで要点をとらえる。 英語で自分の考えなどを話す。 英語で自分の考えなどを整理して書く。 ・このために ○「単語」は中学校で学んだ約900語に加えて新たに400語を学習します。 ○「基本的な文型、文法事項、熟語」を身に付けます。		この授業を受けて、受けた時間分の学力がついていますか。
		この科目の授業について充実感や満足感がありますか。

A → YES

B → どちらかといえばYES

C → どちらともいえない

D → どちらかといえばNO

E → NO

〔事例(4) - 4〕シラバスを用いて教職員の評価と生徒の自己評価とを関連付けている。

○ 導入の効果について

- ・各教科とも、シラバスの導入によって指導がより一層きめ細かくなり、わかりやすい丁寧な授業が展開されるようになった。
- ・定期考査において、学習の定着が不十分な生徒の割合が、過年度と比較して減少した。
- ・全体として「底上げ」の効果が見られる。

(教育計画・シラバス・評価の関わりについて)

- 1 学習指導部の目標・努力点→学力増進と授業の重視
- 2 具体的な目標→教科指導方法の工夫改善、毎時の授業時間確保
シラバスの効果的利用、生徒の自主的学習態度の育成
- 3 教職員による評価

評 価 項 目
各教科の年間計画の具体化と運用は、適切になされたか。
教材研究を深め、指導法の工夫・改善がなされたか。
授業時間を確保し、単位時間を大切に展開したか。
基礎・基本を押さえ、より発展的な学力の向上に努めたか。
個に応じた指導の工夫がなされたか。
生徒が主体的に学ぶ場を設定し、自ら学ぼうとする意欲を高める指導が展開できたか。
シラバスを有効に活用し、適切に評価することができたか。
教科内の共通理解が図られ、教科の目標を達成することができたか。

* 各項目について、取組や達成状況を A、B、C の三つの段階で評価する。

4 シラバスの工夫

- ・学習計画の中で、学ぶ項目と到達目標が対応するように記載している。

〔英語 の例〕

学ぶ項目	月	学習内容(学習の具体的到達目標) 内容を理解し表現等の活用ができる。	備考	考 査 範 囲	自己 評 価
LESSON 7 Pet-Robo	11	(題材)「ペットロボット」について 4人の高校生が話し合っています。 だれがどんな考えか読みとります。 (表現)「賛成・反対する」表現 (文法) S + V (be動詞以外) + C (=過去分詞) It + be など + ~ + that など で始まる節 S+V+O (how など + to 不定詞)	自分は だれの 意見に 近いだ ろうか	期 末 考 査	

5 活用のポイント

- ・「学習内容」の欄が肝心で、何をがんばればよいか、目標をもって授業に臨むよりどころを示している。
- ・自己評価欄に「ABC」や「○ ×」などの記号を書き込み、目標がどの程度達成されたかを内容のまとまりごとに確認できるよう、シラバスの形式を工夫している。
- ・学習習慣の確立については、生活計画記録ノートや学び方のガイドブックなどを活用させて、学習時間の確保や予習、復習のスタイルの定着を図っている。

ポイント（５）保護者による学校評価

評価を生かして保護者の理解と協力を得る。

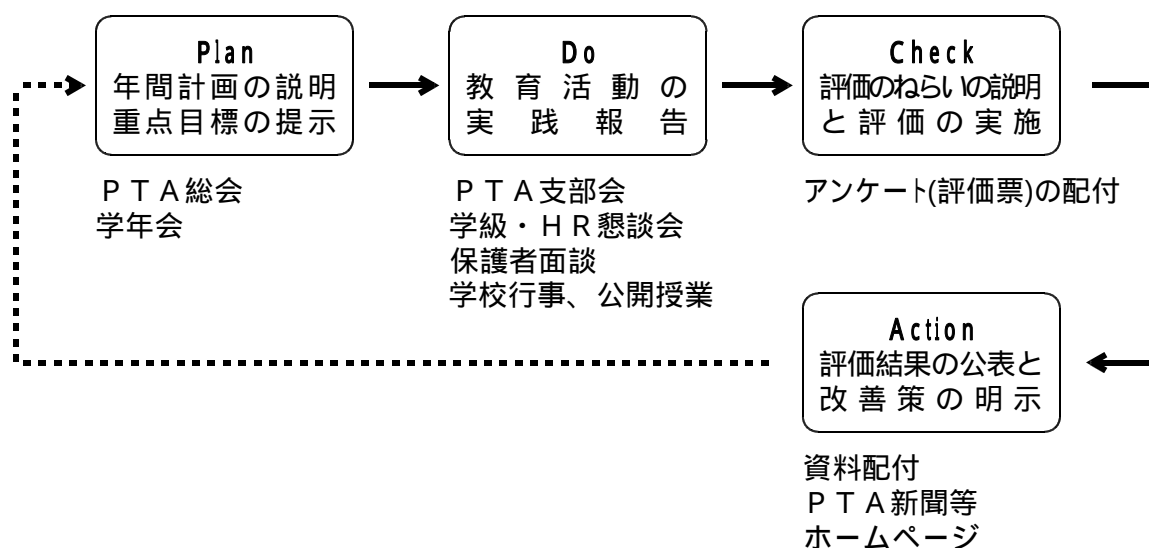
保護者による評価のねらいは、教育活動や学校運営についての理解を促し、協力を得ようとすることにあります。したがって、保護者が学校評価に関わる意義があるかについての十分な説明が必要です。

さらに、保護者に依頼するアンケートや評価票には、回答しやすい適切な項目を設定することが重要です。保護者による学校評価では、生徒を通して得られる情報や参加した数少ない学校行事などの印象から回答するため、「無回答」であったり、「よくわからない」などの選択肢を選ぶ割合が高かったりします。

このため、保護者が評価をする際に必要な情報を、どのようなタイミング、方法で伝えていくのかを工夫することが大切になります。たとえば、各教科・科目ごとに説明するよりも、学校経営、進路指導、学年経営などのまとまりで説明した方が、保護者による学校評価のための情報としては有効であると考えられます。また、盲・聾・養護学校などでは、児童生徒一人一人の個別指導計画を保護者に示しながら、学習指導・支援、相談にあたるなどの取組が進められていますが、これはシラバスを用いて説明するのと同様のねらいや効果があるといえます。

次の図は、保護者への情報提供及び評価の流れを示したものです。

○ 保護者による評価の流れ（イメージ図）



➡ 【ポイント(5)の事例 その1】 項目の重点化

項目を網羅的に設定せず、回答を数値化したり、段階化したりすることで、結果をわかりやすくまとめる工夫がなされています。

また、評価項目を改善し、生徒と保護者に対して共通の項目を設定することで、課題を明らかにしようとしています。

〔事例(5) - 1〕生徒と保護者のそれぞれを対象にアンケートを実施して、自校の課題を探るとともに、評価項目の重点化や改善を図っている。

■ 初年度のアンケート

(1) (保護者対象)

- | | | | |
|--------------|------------------|-------------|--|
| ○ 卒業後の進路の選定 | 「本校からの進路情報はどうか。」 | | |
| ア 十分役立っている | イ もう少し詳しい情報がほしい | ウ 全く役に立たない | |
| アの結果 (17.0%) | イの結果 (81.6%) | ウの結果 (1.4%) | |

* 学校からの進路情報の提供に対する満足度が低いことが明らかになった。

(2) (生徒対象)

- | | | | |
|----------------------|----------------------|----------|--|
| ○ 就職情報の提供について(就職希望者) | 求人情報を知る上で情報量は十分でしたか。 | | |
| ア 十分だった | イ どちらともいえない | ウ 不十分だった | |
| (22.8%) | (52.7%) | (24.5%) | |
| ○ 進学情報の提供について(進学希望者) | 進学情報を知る上で情報量は十分でしたか。 | | |
| ア 十分だった | イ どちらともいえない | ウ 不十分だった | |
| (25.4%) | (55.9%) | (18.6%) | |

* 就職と進学のいずれにおいても、学校からの進路情報の提供に対する満足度が低いことが明らかになった。

(3)分析・考察

平成15年度の保護者の項目で最も課題が明らかになった項目である。また、生徒の評価項目でも、情報提供の効果が生徒に実感されていないことがうかがえる。

ただし、生徒と保護者に対する質問項目や回答の選択肢に違いがあるため、単純に比較して分析することが難しい。

■ 次年度のアンケート

〔目標及び評価項目の重点化と改善の方針〕

- ・ 保護者への説明責任や生徒に対するガイダンスの機能の面からも、積極的な進路情報の提供を平成16年度の重点目標として取り組むこととした。
- ・ 平成16年度は、生徒と保護者に対して共通の項目で実施することとした。

〔改善後のアンケート項目〕

- | | | | |
|--------------------------------------|---------|------------|---|
| ○ 卒業後の進路を選ぶにあたり、本校からの進路情報は十分だと思いますか。 | | | |
| ア 十分である | イ 普通である | ウ 全く不十分である | |
| (ウを選んだ理由 | | |) |

➡【ポイント(5)の事例 その2】 判断基準の設定、結果にすみやかに対応

次の事例では、集計後すみやかに改善に向けて対応できるように、判断基準を設定しています。数値・段階で回答を求める項目については、他の項目と比べて達成度や満足度の低い項目や、自由記述の欄に書かれた指摘事項などを、表の判断基準に照らして、対応のレベルを決定しています。

この方法では、調査についての説明、考察の際の判断基準、公表の際の説明などをわかりやすくすることができます。また、学校が評価結果をもとにどのように対応しようとしているかを保護者に対して明らかにしています。

〔事例(5) - 2〕判断基準を明確にして、評価結果にすみやかに対応している。

区分	評価結果の判断基準（対応のレベル）
	教員の意識形成・変革などですぐに改善する項目
	今年度中をめどに改善をめざす項目
	予算措置や組織改革などで時間をかけて改善する項目

(保護者対象)開かれた学校づくり(説明責任)に関する評価

よくあてはまる ○ ややあてはまる あまりあてはまらない
 × まったくあてはまらない ? 判定できない、よくわからない
 表の中の数字は、回答の割合(%)

評価項目		○		×	?	評価の判断
学年だより、ホームページなどで学校生活の様子を知らせている。	60.0	33.5	4.1	0.6	1.8	A
個別懇談や家庭訪問などの際に、指導経過等を説明している。	60.8	33.3	4.1	0.6	1.2	A
進路や学校全体にかかわる情報も保護者等に伝えている。	30.6	52.9	9.4	1.8	5.3	B
学校は保護者や地域の人の意見を取り入れている。	23.6	48.6	10.3	3.6	13.9	C

○ 判断基準

+ ○ が90%程度かそれ以上 → A 良好。

+ ○ が80%程度かそれ以下。 + × が20%程度かそれ以上。

→ B 要検討。改善策の検討。

? が10%以上

→ C 説明が不十分。アンケート項目の検討。

○ 改善策の検討

・ 学年だよりやホームページの内容について好評であることから、進路や学校全体にかかわる情報を加えて充実を図る。(→ 評価結果の判断基準、)

・ PTAの理事会や学校評議員からの意見を積極的に聴取して改善に生かす。

(→ 評価結果の判断基準、)

➡ 【ポイント(5)の事例 その3】 保護者も集計作業に参加

次の例では、P T Aの意向により評価票にP T A活動に関する項目を設定しています。保護者も集計作業に参加することで、参画意識の高まりが見られるようになっています。

〔事例(5) - 3〕保護者が学校評価に積極的に参画することによって、学校に対する理解と協力が得やすくなっている。

保護者対象の評価票の項目に、P T A活動に関する内容を設定している。また、評価の集計作業にP T Aの役員も参加している。教育活動や学校運営に対する保護者の関心、参加や協力の意識も高まってきている。

○ 開かれた学校づくり（説明責任）に関する評価

	評 価	学 校 評 価
	[]	連絡帳、学年だより、ホームページなどで学校生活の様子を知らせている。
	[]	個別懇談や家庭訪問などの際に、指導経過等を説明している
	[]	進路や福祉、学校全体に関わる情報も保護者に伝えている。
	[]	保護者や地域の人々の意見を取り入れている。

* 評価の欄の回答

よくあてはまる ○ ややあてはまる あまりあてはまらない
× まったくあてはまらない ? 判定できない、よくわからない

ポイント（６）学校評議員の学校評価への関わり

学校評議員に評価結果を示して意見を得る。

評価結果をもとに、学校運営や教育活動の改善に生かす意見を教職員以外から積極的に求めようとする場合、学校評議員の役割は重要です。

全国の実践例を分析すると、学校評価における学校評議員の役割は、次の三つのタイプに分類することができます。

学校評価における学校評議員の役割

（ア）評価の企画に参画	評価項目の設定や基準・方法などに関わる。
（イ）評価に参画	教職員以外の外部の評価者として関わる。
（ウ）評価結果の分析に参画	評価結果に基づいて課題の指摘や学校運営の改善意見を提供する。

➡ 【ポイント(6)の事例】

以下の事例のように、積極的に評価結果を公表することが学校に対する信頼を高めることになり、学校評議員の意見を生かして改善を図ることにつながります。

〔事例（６）- １〕学校評価システムの構築を促す意見を得ている。

学校評議員に対して、教職員による評価の結果を示したところ、生徒、保護者による評価も早急に導入する必要があるのではないかという提言があった。この提言を受けて、校内で検討中であった教職員以外による評価を、すみやかに導入することとなった。

〔事例（６）- ２〕学校評価システムの構築により、学校に対する信頼が高まるとともに、具体的な改善意見も得やすくなっている。

学校評議員に対して、学校評価の結果を示したところ、「企業ではほとんど実施しているが、学校でもこのような取り組みを積極的に行っていることは驚きだ。」といった高い評価を得た。学校が取り組もうとしている方向性が明らかになり、具体的な意見を得やすくなった。

3 学校評価システムの全体像と実践の流れ

ここでは、これからの学校評価の全体像を明らかにして、おおまかな実践の流れを事例を交えて紹介します。

学校評価は、一般に次のような過程を経て行います。

- (1) 組織をつくる。
- (2) 教育目標等に基づき課題を把握して重点目標を定める。
- (3) 重点目標の達成に向けて、具体的な目標及び評価項目を設定し、教育活動や学校運営の実施計画を立案する。
- (4) 具体的な目標や評価項目を踏まえながら、計画を実行する。
- (5) 実行の過程や結果を評価する。
- (6) 評価結果をもとに改善策を設定し、次の計画や実行につなげる。

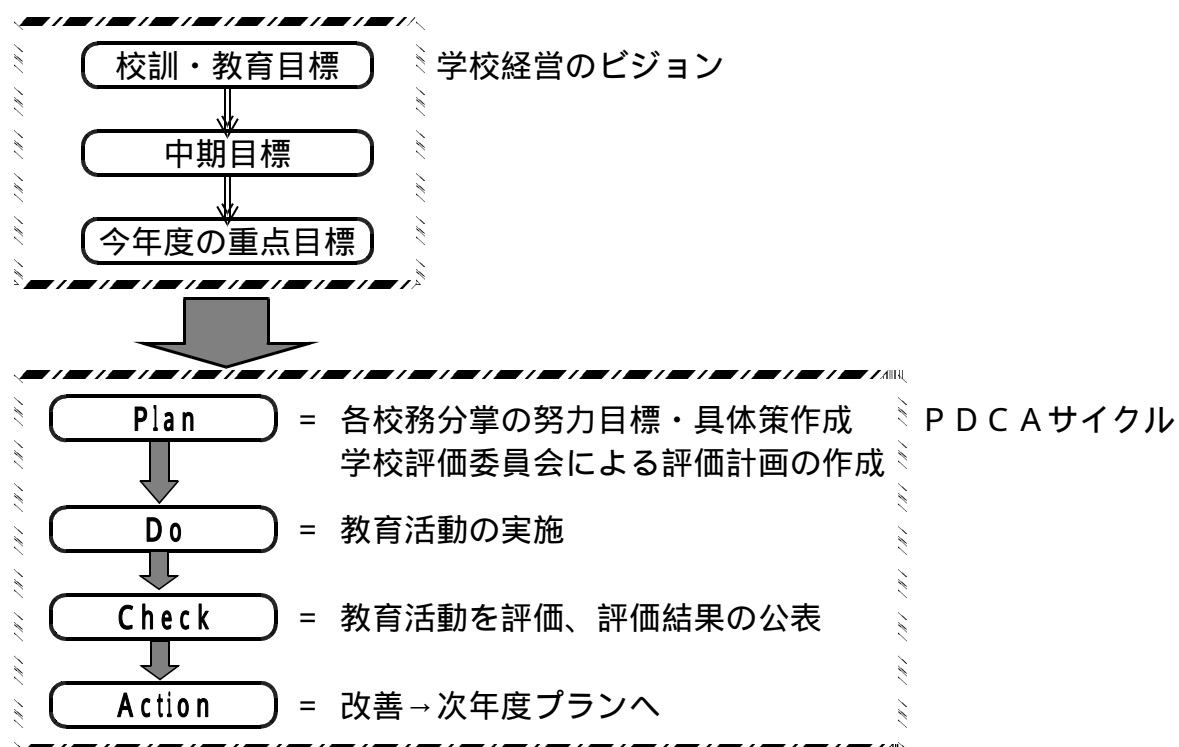
このような学校評価を組織的に行う、システムの全体像を模式図にすると、下図のようになります。

まず、校訓や教育目標などをもとに、今年度の重点目標を設定するという、「学校経営のビジョン」を明らかにします。

次いで、各校務分掌ごとに努力目標や具体策を作成し、学校評価委員会は評価計画を作成します。そして、これらの目標達成に向けて教育活動を実施し、その教育活動进行评估します。この際、教職員が行う自己評価を中心に据えながら、生徒、保護者などの評価も取り入れます。評価結果はすみやかに公表し、学校評議員からは意見を聴取します。また、課題が残った事柄に関しては、必ず改善策を検討し、次年度のプランに反映させます。

このサイクルを繰り返し、教育活動や学校運営の改善を図っていきます。

学校評価システムの全体像



➡【事 例】

学校評価システムの全体像に関連して、1年間の実務の流れと様々な評価の具体例を示します。

〔事例3 - 1〕学校評価の概要

（１）学校評価を推進するための組織について

学校評価委員会	
○ 構成	○ 小委員会の構成
・ 校長、教頭、教務主任	・ 評価班
・ 8名の教諭	・ シラバス班
・ 必要に応じて教科主任	

〔学校評価委員会の役割〕

- ・ 学校評価に必要な年間計画、評価項目、評価の判断基準などを企画立案する。
- ・ 学校評価の実施・集計を行い、さらに、改善につなげる分析・考察を行う。

〔取組のポイント〕

- ・ 基礎学力の向上が、本校にとって最も重要な課題であることから、必要に応じて教科主任を加えられるような組織とした。
- ・ 小委員会としてシラバス班を設置し、生徒による評価のシステムの基盤づくりに取り組んだ。

（２）学校の重点目標の設定

- 生徒の基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、基礎学力の向上充実を図る。
- 自己研鑽・相互研鑽・学校評価の研究等を通して教科指導力の向上を図る。

〔取組のポイント〕

- ・ 確実に改善につなげられるよう、単年度の課題とせず、3か年継続で取り組むこととした。

（３）学校評価の流れ

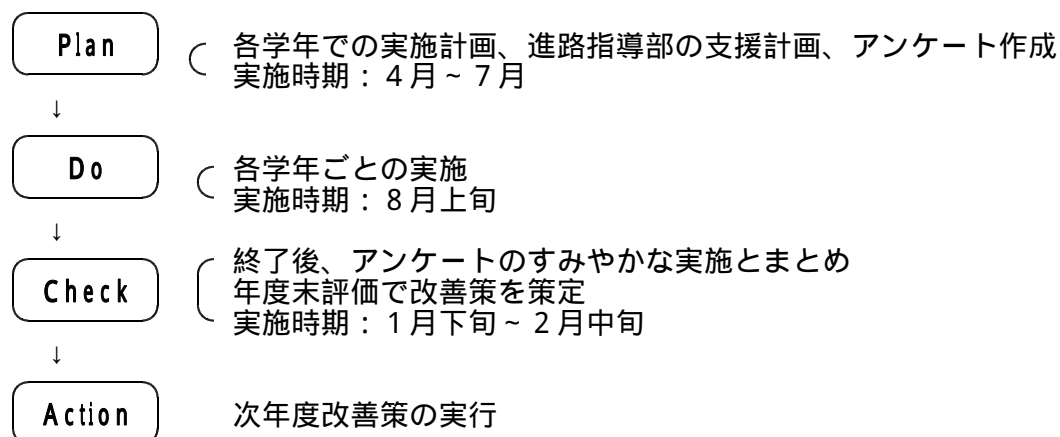
- ・ いわゆる組織マネジメント手法の一つである「目標による管理」をベースとして取り組むこととした。
- ・ 各年度の具体的な取組のよりどころとなる重点目標を設定する。
- ・ 経営目標・重点目標を、各部・係、学年、教科ごとの目標として具体化する。

〔取組のポイント〕

- ・ 目標、実践、評価、改善の一連の流れが一つの評価表にまとめられる形式とする。
- ・ 目標は、測定・評価が可能となるように設定する。
- ・ 各部・学年だけでなく教科も加えることで、学校全体の取組となるようにした。
- ・ 最終的には、年度末評価において具体策に集約できるようにした。
- ・ 学校評価アンケートでは、生徒、保護者、教師の認識のずれを把握するため、項目をしばり、評価結果はすべて公表した。
- ・ 学校評議員には、これらの評価結果を示し、教育活動や校務運営の改善のための意見を聴取した。

〔事例3 - 2〕 各教育活動ごとの評価

(例) 学習合宿アンケート(評価者: 参加生徒)



- 参加生徒対象のアンケートと結果(104名 目標120名) * 数字は実数を表す。

(満足度など)

合宿に参加して		次回は	
a	良かった 6 1	a	参加したい 6 6
b	まあまあ 3 2	b	わからない 2 2
c	良くなかった 1	c	参加したくない 6

(記述の意見)

- この合宿を通してがんばった点・良かった点
集中して学習できた。集中力が身に付いた(23)。皆のがんばる姿勢に刺激され、自分もやらないといけないという気持ちになりがんばれた(22)。

- 各部・学年・教科の努力目標・具体策の作成、年度末評価

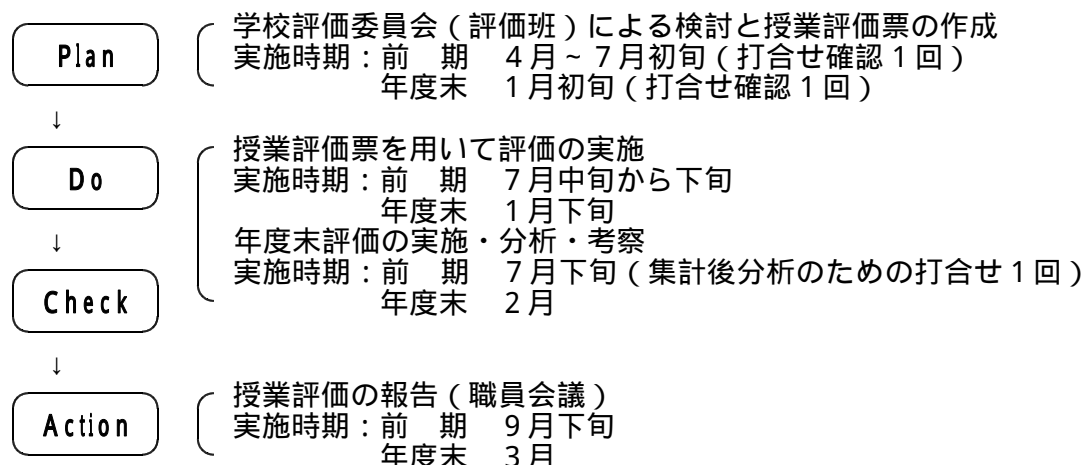
(進路指導部)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
- 早期に進路に対する意識を高め、低学年から進路行事を実施する。 - 学年、教科、学習指導部等との連携強化に努める。	学習合宿を全学年で実施し、早期の受験体制づくりを支援する。		学習合宿を全学年で実施できたことはよかった。
			学習合宿の全学年での実施は継続させたい。

(第3学年)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
基礎学力をもとに応用力の定着を図り、自己の進路実現を果たす。	学習合宿は、半数(約120人)以上の参加をめざす。		- ほぼ目標の人数を集めることができた。 - 生徒向けに前宣伝した方がよい。
			- 募集方法を工夫する。 - 学年別に実施を検討。

〔事例 3 - 3〕 授業評価
(評価者：生徒)



○ 授業評価票
(ある教科の例)

○ 評価票の項目ごとの分析
・ あなたのこの授業に臨む姿勢はどうですか。 意欲的に参加している。 真面目に参加している。 あまり集中できない。 意欲が持てない。
・ と を合わせた割合が89%(7月)から97%(1月)へと 8 %増えた。
・ 全体として、この授業の満足度はどの程度ですか。 非常に満足である。 満足である。 どちらでもない。 不満である。 非常に不満である。
・ 1 月においても と の不満を訴える割合は 3 %と低い、 のどちらでもないが50%を占めている。これは 2 学期以降の授業内容が難しくなっているのに対して、授業の工夫や配慮が不足している結果と受け止めている。
○ 成果
・ 学年の進路指導との連携の効果が見られ、進路意識が高まるとともに、授業の取組も良くなってきている。
○ 課題
・ 「進度」と「理解度」のバランスをとることが求められる。「授業の満足度」を高めることが解決の鍵になる。
○ 次年度に向けた改善策
・ 授業での理解が十分でない生徒に対する対応として、テスト前の個別指導を実施したい。 ・ 基礎基本の定着については、定期テストごとの課題を明確にして、ノート の提出を促すなどの指導の効果があつた。次年度も継続する。

- 各部・学年・教科の努力目標・具体策の作成、年度末評価

(学習指導部の例)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
基礎学力の充実と学習意欲の啓発に努める。	個に応じた指導方法を工夫し、各種テストの効果的活用・習熟度別授業や課外授業の工夫など		・生徒の学力差の拡大が課題である。 ・習熟度別授業は、理解度の高い生徒に対する効果は見られた。 ・土曜日課外への参加が良かった。
			・習熟度別授業が理解度の異なる生徒の間でどのような効果があるかさらに研究を進める。 ・課外授業参加を促すために、魅力ある授業の工夫をすすめる。

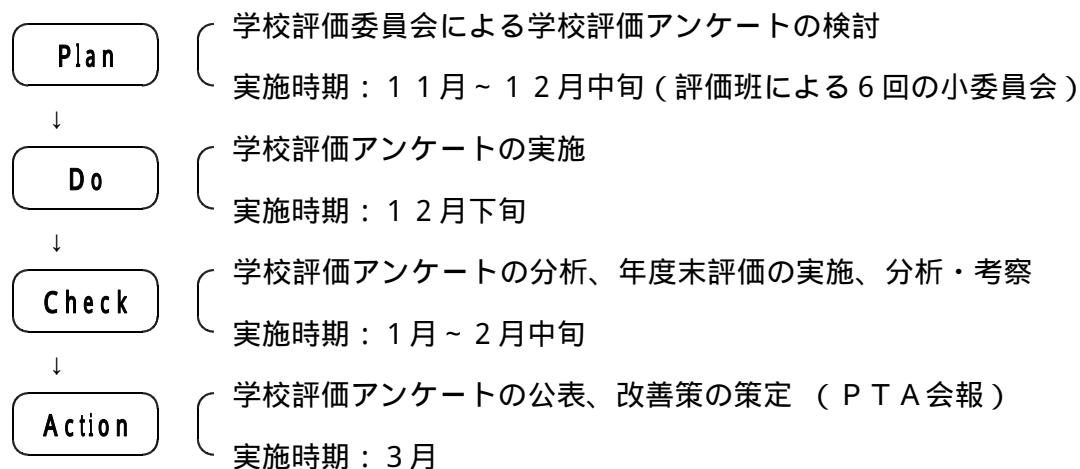
(学年の例：第2学年)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
進路の目標を早期に明確化して、生徒の学力を向上させる。	課題などを通じて次年度の入試に向けた学習の習慣化を図る。		理系で数学、化学の課外を実施できた。
			3年生の状況など進路情報を適切に伝え、課外の必要性を理解させる。

(教科の例：理科)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
魅力ある授業を展開し、知的好奇心や探究心を喚起する。	生徒の実態を把握し、指導内容の精選・集約を図る。		・授業評価や学習実態調査を通して生徒の様子は的確に把握できた。 ・問題集用ノートや小テストにより、実態把握に努めた。
			・授業評価や学習実態調査の結果を分析し、改善策に反映させる。
	単元ごとに生徒が活動できるような場面を設定したり、話題を提供する。また、コンピュータの活用も図る。		・授業に変化をもたせたり、生徒が主体的に活動できる場面を設定できた。 ・パソコンを使った授業を2回程度実施できた。
			・実習的な活動場面を設定して生徒の意欲をさらに喚起する。 ・コンピュータの活用についても研究する。

〔事例 3 - 4〕 学校評価アンケート
(評価者：教職員、生徒、保護者)



○ 学校評価アンケート

- ・教職員と生徒については から の4段階、保護者については を加えた5段階の評価としている。

よくあてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない 判定できない（保護者）

- * ここでは、生徒・保護者・教師の間で評価結果の差が大きかった次の1～4の四つの項目の結果を示す。

1 校則や社会のルールを理解して行動している

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
（生徒）	24%	53%	-
（保護者）	9%	44%	14%
（教師）	6%	41%	-

（分析・考察）

- ・生徒の意識は、教師や保護者と大きなずれがある。
- ・学校と家庭の連携を密にしながら指導していきたい。

2 教職員の対応は親切で誠意がある

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
（生徒）	12%	44%	-
（保護者）	33%	44%	13%
（教師）	57%	37%	-

（分析・考察）

- ・教職員の努力が、生徒に受け止められていない
- ・生徒側に立った指導やサービス面で現状を見直す必要がある。

3 生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
(生徒)	11%	22%	-
(保護者)	24%	41%	25%
(教師)	52%	33%	-

(分析・考察)

- ・進路指導と生徒指導の両面から、担任の行う面談を充実させてきたが、十分に反映されていない。
- ・生徒の悩みの変容など今までにない課題に学校全体で取り組む必要がある。

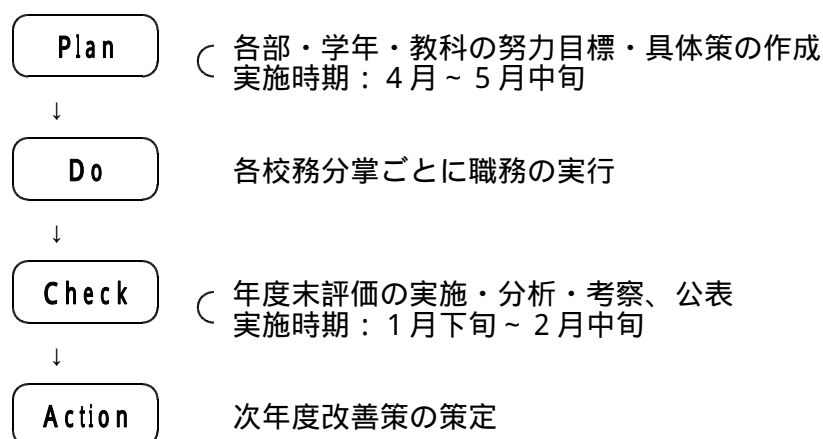
4 教職員はP T A活動に協力的である

	よくあてはまる	ややあてはまる	判定できない
(保護者)	24%	34%	32%
(教師)	48%	44%	-

(分析・考察)

- ・P T A活動についての学校からの情報が十分でないことがうかがえる。
- ・P T A総会・学年部会等の出席率のアップをめざしたい。

〔事例 3 - 5〕 年度末評価
(評価者：教職員)



○ 評価表の形式（抜粋）

- ・4月の段階では、次の表のように評価表を作成して、年度末に4段階の評価と、分析・考察及び改善策を記述してまとめる。
- ・様々な評価者による評価の結果も、最終的にはこの評価票に反映される。このため、従来の年度末反省とは異なり、具体的な目標と評価結果に基づいて、分析・考察、公表、改善策の策定に取り組むことができる。

(学習指導部の例)

努力目標	具 体 策	評価	分析・考察・改善策
1 教科指導の充実を図る	(1)基礎・基本を踏まえたわかりやすい授業を工夫し授業研究を進める。		上段は反省・課題を記述する ----- 下段は改善策を記述する。
	(2)各種テストの迅速な処理と事後指導の充実をめざす。		
	(3)授業時間の確保のため、チャイムとともに授業を始める体制づくりに努める。		
2 基礎学力の充実と学習意欲の啓発に努める	(1)個に応じた指導方法を工夫し、各種テストの効果的活用・習熟度別授業や課外授業の工夫などを行う。		-----
	(2)自主学習の定着をめざし、放課後や土曜日の学校利用・漢字コンクールなどの取組を積極的に進める。		
	(3)学習実態調査の検討とその有効利用をめざす。		
3 総合学習の推進と検討を進める	(1)学年正副担任・係の連携と協力のもとに、1年生の総合学習の充実をめざす。		-----

A：達成できた

B：ほぼ達成できた

C：あまり達成できなかった

D：達成できなかった

4 おわりに

学校評価については、過去に何度かのブームが起りましたが、それらの内容は、教職員による評価の改善が主なものでした。現在取組が進められている学校評価では、教職員以外の人々による評価も取り入れようとしている点が、過去の学校評価と大きく異なっています。これと並行して学校評議員制度も導入されており、現在では、「地域が参画する新しいタイプの公立学校」の運営についての実践研究も始まっています。このような、様々な制度の導入や改革は、学校、家庭、地域、社会が連携して学校教育の充実を図るために行われています。学校は、保護者など教職員以外の人々の協力を得ながら、児童生徒にとってよりよい教育活動を提供していかねばなりません。

学校評価は、各学校が持っている歴史、人材、施設、地域性、環境といった条件の中から、「強み」といえる条件を生かして、主体的に教育活動や学校運営を改善していこうとするしくみであり、学校評価システムを確立し組織的に改善に取り組んでいくことが、これからの学校経営には欠かせません。

学校評価に取り組むことが「評価のための評価」とならないようにするためには、「評価が改善につながった」という手応えを得ることが大切です。それには、重点目標を具体化して、できるところから始め、確実に成果を重ねていくという取組に、全教職員が参画意識をもって当たっていくことが肝心です。

また、評価結果の公表は、保護者や地域の人々の理解と協力を得るためには不可欠です。公表にあたっては、評価項目を設定する段階で、評価の判断基準や改善に取り組む手順を明確にしておくことが大切です。

学校評価システムの確立に向けての取組はまだ緒に就いたばかりですが、本資料に紹介した事例のように、教育活動や学校運営の改善に向けたすぐれた実践が増えています。今回の聴き取り調査を通して、各学校がそれぞれ育てるべき生徒像を明確にして、学校評価を生かして特色ある学校づくりに取り組んでいる熱意を感じとることができました。

終わりに、聴き取り調査にご協力いただいた各校には深く感謝申し上げます。紙面の都合上、聴き取り事項を全ては紹介できませんでしたが、ご了解くださいますようお願いいたします。

学 校 評 価 に 関 す る 参 考 資 料

- 学校評価システムの確立に向けて -

【 県立学校 】

平成16年11月

発行 栃木県総合教育センター

編集 栃木県総合教育センター研究調査部

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028(665)7204

FAX 028(665)7303

E - mail : cur-c@tochigi-c.ed.jp